

跡津川観測点で観測された地下水溶存ガス濃度の変動について Variation of concentration of dissolved gas in groundwater observed at Atotsugawa station

照沢 秀司^{1*}, 田中 秀実¹, 角森 史昭¹
Shuji Terusawa^{1*}, Hidemi Tanaka¹, Fumiaki Tsunomori¹

¹ 東京大学大学院理学系研究科
¹ School of Science, The University of Tokyo

断層は地下からの物質移行経路であり、どのような流体が断層沿いに分布するかを把握することは、地震・断層活動にともなう断層帯の化学環境変化やその影響範囲を検討するうえで重要である。また、さまざまな地質学的背景や性状を持つ断層帯における流体の連続観測においては、経年変化や季節変化を捉えることが重要な課題である。

東京大学地殻流体研究グループでは、四重極質量分析計を用いた地下水溶存ガス連続観測装置 (GROWDAS: GROund Water Data Analyzing System) を開発し、岐阜県跡津川断層において2010年12月より連続測定を開始した。連続的に観測することで、数ヶ月にわたる長期的な変動を捉えることができた。このデータを、様々な要因(気温, 気圧, 降水量, 地殻変動)と比較することで、溶存ガス濃度の変化を引き起こす要因についての検討を行った。本発表では、観測データとその変動の素過程について論じる。